

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 7 月 8 日

評価対象事業	健福	-	49	食育事業				☐ 法定受託事務
所管課	健康福祉部 市民健康課				評価者	市民健康課長 那須 文嘉		
一般	会計	款	20	項	5	目	15	
総合計画上の位置付け	分野名	健康福祉			施策の方針名	健康長寿社会の構築		

1 事業の目的

対象	市民等	意図	食を通して市民の健康の維持増進を図るため。
効果	市民の健康に対する意識が高まり、自分から進んで健康の維持増進のための行動をとることができる。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	鎌倉食育推進計画の推進・進捗管理・評価	鎌倉食育推進計画の推進・進捗管理・評価	鎌倉食育推進計画の推進・進捗管理・評価
予算額（千円）	715	435	
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	715	435	0
当初人員配置数	3.0	3.0	0.0
人件費（千円）	11,299	11,798	0
事業実績	鎌倉食育推進計画の推進・進捗管理・評価		
決算額（千円）	241		
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	241	0	0
人員配置実績数	3.0	0.0	0.0
人件費（千円）	11,045	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7 (上段実績、下段経費（千円）)	R8	R9
活1	指標名	「おにぎりきょうしつ」の開催数	回	4	⇒	6		
	実績につながる活動	「おにぎりきょうしつ」を年6回開催した。				16		
活2	指標名	「やさいはかせになろう」の開催数	回	4	⇒	3		
	実績につながる活動	「やさいはかせになろう」を年3回開催した。				4		
活3	指標名	「さわってまなぼう！かまぐら」の開催数	回	0	↗	2		
	実績につながる活動	「さわってまなぼう！かまぐら」を年2回開催した。（令和7年度から実施）				20		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	夏に開催した体験講座については、猛暑の影響で参加を控える傾向が見られた。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	「やさいはかせになろう」については令和6年度は4回、7年度は3回開催で合計の参加人数は減っているが、各回の参加人数は増えているため、今後も各体験教室のLINEでの情報配信やこどもの健診会場でのチラシ配布を行い、周知を図っていく。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果 指標No (最大3つ)
成1	幼児食育事業への親子での参加率	%	83.8	↗	100			1 2 3

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	親子で一緒に食育について考える機会を持ってもらうため、全て親子対象の講座とした。また参加しやすいよう、子育て支援センターでの実施や、土曜日、午後開催など様々な時間に実施した。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	親子対象としたことで、一緒に体験し楽しむ中で食育の啓発ができた。結果、満足度が高くなり、口コミ等の効果もあり安定した参加率となった。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	食育には興味関心があるものの、普段家庭では実践しにくい体験について、市が講座を行うことで補うことができたと考えられる。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市	☐ 国・県	☐ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☐ 十分に出ている	☒ 概ね出ている	☐ 出ていない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
	公平性	関連・類似事業との統合	☒ できる	☐ できない	
方向性		評価実施年度の方向性	⇒ 評価実施翌年度以降の方向性		
	事業内容の方向性	☒ 事業内容は現状通り ☐ 事業内容は見直し済 ☐ 事業を休止又は廃止済 ☐ 他事業と統合済	⇒	☐ ① 事業内容は現状通りとする ☐ ② 事業内容は見直す → ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☒ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する → 健康づくり・食育 事業へ統合	
	予算規模の方向性	☒ 予算規模は現状維持 ☐ 予算規模は拡大済 ☐ 予算規模を縮小済	⇒	☒ ① 予算規模は現状維持とする ☐ ② 予算規模は拡大する ☐ ③ 予算規模は縮小する	

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果		前年度は新たな課題なし		
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たな課題あり	「いってみよう！かまぐらの畑」では、農業者の協力が必要であるため、今後も継続ができるように、関係団体に依頼し協力を求めていく必要がある。	
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新規事業の必要性はない		
	総評	各講座について、概ね計画通りに実施し、参加率を維持できている。引き続き、講座の実施を継続するとともに、他の世代にも広く周知できるよう、インターネットや広報誌を活用した食育啓発に努めていく。			
					上位施策への寄与度
					B

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項	災害時の具体的な食の備えに関する啓発を行っているか。※△は備蓄のみの情報や食中毒に関する情報など								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	○	○	△	△					

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	他市町村においても、様々な方法で周知啓発している。災害時に関する食に関する情報は災害防災担当課のみならず、健康増進担当課においても、周知啓発を行っている市町村が多く、自助・共助を促すためにも日ごろから家庭でできる食に関する備えをしておくよう啓発を続けていきたい。
----------------------	---